

令和8年度 第1回白石市総合計画・総合戦略推進委員会事前意見と市の考え

No.	項目	意見の要旨	市の考え方
1	総合計画・総括	「人口減少が進んでいることにより、各種団体活動の停滞、担い手の減少が大きな課題となっている。」と書かれているが、“活動の停滞”と“担い手減少”の原因を人口減少のためと逃げているように見える。	市の行政運営においては、様々な団体の協力を得ながら進めているとともに、地域運営、スポーツ・文化活動においても、市民の方が各種団体に所属して活動をしています。そのような団体において、構成員の高齢化と人口減少による担い手の不足により、持続的活動が困難になってきているという状況にあります。今後も各種団体の活動が継続できるよう、サポートを実施していきたいと考えています。
2	総合計画・重点戦略1	ここに示している分析、今後の方向性取組、特に“分野横断的な検討”を進めていってください。	子育て環境の整備については、これまでも様々な取組を実施してまいりました。今後も、子育てしやすい環境、子どもの教育環境について充実を図ってまいりたいと考えております。
3	総合計画・重点戦略4	記載されている内容については、ここ数年同じような内容となっていると思われる。今後どのように取り組んでいくのか。	課題として挙げている「働く場の創出」については、仙台南部工業団地への企業誘致に取り組んでまいりましたが、これまで実績はありませんでした。本年度、工業団地の造成について、オーダーメイド方式からレディメイド方式への変更を進める予定であります。これを機に、さらに積極的な企業誘致に取り組み、早期の企業誘致に向けて進んでまいりたいと考えております。
4	分野目標1	学校支援ボランティアの活動については、評価も高く、学校としても学習内容や活動場面によっては非常に助かる部分も多いので、さらに活用すべき。 少年団の加入については、子どもの数が減っているにもかかわらず、団の種類はあまり変わらないように思える。少年団の加入率の評価は指標にそぐわない気もする。	学校ボランティア活動は、地域と学校が直関わる大切な機会であるため、支援を継続していただけるよう、活動の周知と理解促進を図ります。 「スポーツ少年団加入率」については、昨年度指標の見直しを実施し、広く生涯学習活動やスポーツ活動、地域活動に取り組む市民を対象とした指標として「公民館利用者数」に変更いたしました。今後も生涯学習活動に取り組む市民を支援していきます。
5	分野目標1	学校支援ボランティアについて、ボランティア対応のノウハウが不足しているのではないのでしょうか。また、関係者へのヒアリング実施などしっかりボランティアへの対応の仕方を検討する必要があるのではないのでしょうか。	学校支援ボランティア研修会や地域連携担当者会において、学校支援ボランティアの方々や小・中学校の先生方に意見を伺う機会があります。このような機会を捉えて、活動している学校支援ボランティアに携わる方々の意見を聞き取り、学校支援ボランティア活動の活性化に努めてまいります。
6	分野目標1	スポーツ少年団活動と同時に、それよりも前の幼児の活動も念頭に置くべきではないか。	運動習慣を身に着けるためには、幼児期に体を動かす楽しさを体験することが重要であり、各種スポーツ・文化教室の中で、3歳から5歳児を対象とした体づくり教室を実施しております。 今後とも、幼児期からの運動あそびなどを継続的に実施してまいります。
7	分野目標1	「保護・保存を原則としながらも、まちづくりの視点から歴史遺産・伝統文化を地域資源として活用していくための体制」について、どんなことができる体制でどんなメンバーで構成されていくのか知りたい。また、これまでにそのような体制はなかったのでしょうか。	市民が市内の歴史を調べるだけでなく、その調べた知識を多くの人に知ってもらう機会を設け、調査・研究、情報発信、観光や地域活動を市民が主体的にかかわっていけるような体制を考えております。 メンバーは、文化財担当者や文化財愛好者が加入する市民団体「白石市文化財愛護友の会」を中心に、必要に応じて地域住民、学校関係者、観光やまちづくりに関わる団体、その他の関係団体等とも連携を図りながら、体制の広がりを持たせていくことを想定しており、このような体制を整えることで、歴史遺産・伝統文化の継承と活用ができるように進めていきたいと考えております。
8	分野目標1	人を育むのは子供だけではない。親が関心が無ければ家庭で話題にもならない。親子で参加できる文化活動があれば良いと考える。 また、部活動のあり方に変化が求められる時代、放課後子供教室を含め、子供達が様々な文化やスポーツに触れられる体制づくりが欠かせない。	現在、白石第二小学校の放課後子供教室につきましては、斎川地区の伝統文化の体験活動を実施しており、ほとんどの参加者が親子での参加となっております。このような取り組みを参考に、他の地区でも親子で参加できる文化活動を実施できるよう検討したいと考えております。 また、将来にわたり子供たちが多様なスポーツや文化活動に親しむ機会を確保するため、休日の部活動を地域クラブ活動に展開する休日部活動の地域展開を進めていきます。
9	分野目標1	・住みやすい環境・育てやすい環境について。 我慢すれば住み続けられる町から、住み続けたいと思う町への改善を望む。岩沼以南の地域は、世帯所得が下がる理由として、仙台圏内への就労継続が可能かどうか力がギンになっていると感じる。 ・小1の壁について 白石市に住む母として直面しているのが、仙台圏内へ働き続けるのに児童館のお迎えの時間まで15分足りない。保育園は19時までだったが、児童館は18時半までということもあり4人家族で転居を考えざるを得ない。唯一20時まで受け入れ可能なしろいしきちも待機待ちということで、貧困層を救う施設ということではなく白石市に住み続けられることができる施設して、19時まで受け入れ可能になることを希望します。	就労環境については、現在、仙台南部工業団地への企業誘致に取り組んでおります。市内での雇用環境向上に向けて、今後も積極的な企業誘致に取り組んでまいります。また、市外へ通勤している市民への支援については、他市町村の事例をみると、通勤費用に対する支援、新幹線利用者に対する助成、駅前から保育園への送迎など様々な事例があります。これらの事例を参考に、本市の財政状況を考慮しながら検討してまいりたいと考えています。 また、児童館につきましては、内容から推測しますと市で設置している放課後児童クラブ（第一児童館放課後児童クラブ又は第二児童館放課後児童クラブ）を指しているものと考えます。これらの放課後児童クラブは各児童館施設を利用し、市が委託する指定管理者が放課後児童クラブ事業を運営しております。 放課後児童クラブの運営につきましては、児童の安心安全な受入れ体制を整えることが前提であると考えており、利用時間の延長にあたっては、職員の勤務体制の変更や更なる人員確保などの課題が生じてまいります。 このような課題も踏まえ、今後、保護者のニーズを把握していき、適切な利用時間の設定について放課後児童クラブの指定管理者と協議しながら検討してまいりたいと考えております。
10	分野目標2	協働のまちづくりの推進において、地区計画の策定が進んでいることは成果であり、今後も充実を期待したい。課題は、市民活動センターの活用かと思う。まちづくり協議会や自治会の協働が必要かと思う。	市民活動支援センター運営については、これまで白石市民活動フォーラムが運営してきましたが、組織の担い手不足などもあり、活発な運営ができていませんでした。本年度から、新たに白石地区まちづくり協議会を事務局とする「白石市民活動支援センター運営協議会」が運営を担っております。活発な事業連携ができるよう、運営団体との協議、支援を行っていきます。
11	分野目標2	職員の研修派遣人数について、官製談合防止法等研修の受講を全職員に拡大したためが理由なら、A判定はいいかなのでしょうか。	職務環境や職員の公務能率向上のため、新たにカスタマーハラスメント研修、自動車運転研修、管理職向けウェルビーイング研修等を実施しており、令和7年度実績（受講者数のべ900人）のうち、官製談合事件を受けて実施している官製談合防止法等研修（190人受講）、コンピュータアシス研修（308人受講）を除いた値（受講者数のべ402人）において、中間値及び目標値を上回っています。引き続き、職務能力向上、持続可能な行政サービスの提供のため、必要な研修を実施してまいります。
12	分野目標2	SNSの情報発信は今後益々重要となる。 地域おこし協力隊は何のためにいるのか不明な部分もあるため、活性化させたい分野に一人ずつちゃんと配置すべきと考えます。	SNSによる情報発信は重要であると認識しておりますので、必要な情報が市民の皆様にはしっかり届くよう、引き続き事業担当所属と連携して情報発信に取り組んでまいります。 地域おこし協力隊については、活性化分野への配置を求める声がある一方、これまでの運用実績を検証すると、任期満了前の離職や隊員の希望と自治体が求める役割との間にギャップが生じやすいといった課題が浮き彫りになっております。こうした課題やこれまでの経緯を真摯に受け止めつつ、今後は本市の地域実情に最も適した効果的な人材活用のあり方について、引き続き慎重かつ多角的に検討してまいります。
13	分野目標3	子育て分野の待機児童の減少やキッズランドの運営は良い成果と考える。 福祉面での要支援家庭へのケアについては、まだ足りない感じがする。高齢者の1人暮らしへの支援は今後も大事に考えてほしい。	高齢者に対する支援、特に1人暮らしの高齢者世帯への支援は今後ますます重要になっていくと考えます。地域包括ケアシステムや第2層生活支援コーディネーターなど、高齢者が暮らす地区と一緒に作った支援を今後も継続していきます。
14	分野目標3	高齢者福祉で通いの場への参加率が低いのは残念である。足の問題や生活支援コーディネーターの役割も明確でない部分もあるため、理解が深まっていないのではないかと。 障がい者の社会参加や就労の場はもっと広げるべきと考える。 子育て施策に関しては充実しており、継続して欲しい。	参加率については、現在の参加者が身体能力の低下などから参加出来なくなることも多く、新規の参加者がいても数値が伸びにくいのが現状です。既存の通いの場が継続出来るように支援するほか、新規の通いの場の立ち上げ支援などを実施することで、車がなくても通えるような場所を増やし、参加率をあげていきたいと考えております。また、地域内にどのような通いの場があるか、浸透していないようにも見受けられ、通いの場の参加率を伸ばすためには、周知のほか、地域の中で参加しやすい雰囲気作りも重要と考え、各団体に働きかけを行ってまいります。 生活支援コーディネーターに関しては、ベースとなる生活支援体制整備事業についても、地域の団体や住民に事業内容が浸透していないことが課題と思われます。この事業の役割等を再度整理し、共有していくことで地域内での活動がしやすくなるよう改善を図ってまいります。 障がいのある人の社会参加や就労支援については、仙南地域自立支援協議会や県南障害者就業・生活支援センター等の関係機関と連携・協力しながら、引き続き支援していきたいと考えております。
15	分野目標3	白石市に住むことを決めていた理由として、出産以外のネックがあまり少ないことだったということがありました。一番に柔軟に受け入れ可能な小児科が刈田病院にあったことです。近年、子どもが夜間体調を崩した際に数年で受け入れ体制が変化し、白石に転入前に経験した仙台近郊で夜間に子どもをつれて途方に暮れた状況と変わらず、転出への気持ちしが傾くと感じました。	公立刈田総合病院では、日曜日に小児科の診察を行う医療機関が市内にないため、日曜日に予約制にて小児科外来の診察を行っています。しかしながら、小児科の常勤医が1名しかいないため、現状、夜間の対応は難しい状況にあります。 今後、関係機関と協力しながら、安心できる地域医療体制の確保に努めていきたいと考えています。
16	分野目標4	防災について、市の防災訓練は参加者が増えている。学校や企業なども含めた計画実施が今後必要と考える。 また、災害の種類や季節についても考える余地があるので、それらを踏まえた訓練も大事かと思う。予算はかかるが、避難所の空調などもこれから改善すべき。	防災訓練への参加により、防災・減災の意識の醸成を図ることは重要です。今後は、指定避難所での訓練に限らず、自主防災組織が中心となった、自助・共助を意識した地域の一時避難場所の訓練も充実させたいと考えています。 なお、近年は風水害による災害も深刻化しています。風水害に備えた訓練も、今後どのような形で実施できるのか、検討していきます。 また、指定避難所の適切な環境維持については、令和7年度、8年度に国の交付金を活用して購入したスポットクーラーや暖房器具、ポータブル電源を各指定避難所に配備します。
17	分野目標4	先日的大雨警報の際はいち早く避難所を設置し、SNSで発信したのは素晴らしいと思う。防災、熊関係など、やはりSNS情報が役に立っている。今後SNSを利用しない高齢者をどう守るかを考えていただきたい。	SNSを利用しない高齢者等に対しては、テレビ・ラジオの情報のほか、市から避難対象となった地域の公民館に対して情報提供を行い、続いて公民館から各自治会に連絡が行われ、消防団や自主防災会などを通じて情報が伝達されていく体制を構築しています。今後もこの体制を活用して、速やかな情報伝達に努めたいと考えています。
18	分野目標5	一見マイナスに見える山林を含む地方は、都会から就農者を呼び込む宝の地でもある。魅力発信に力を入れたい。 若者が流出しないよう働く場の確保も力を入れて欲しい。	新規就農にあたっては、農地や資金の確保、技術の習得、また、離職せずに営農を継続していく体制整備への対応が重要と考えており、営農計画や技術習得状況などを確認した上で、新規参入が妥当かどうか、大河原改良普及センターなどの関係機関と連携し、対応にあたっています。今後も、新規就農希望者の意向に寄り添った支援が行えるよう、関係機関とさらに連携し、情報発信や情報提供などを強化し、新規就農者の確保に努めてまいります。 働く場の確保については、仙台南部工業団地への企業誘致に取り組んでおります。工業団地の造成について「オーダーメイド方式」から「レディメイド方式」に変更し、立地を検討している企業にとってよりよい環境となりますので、さらに積極的に企業誘致に取り組んでまいります。

令和8年度 第1回白石市総合計画・総合戦略推進委員会事前意見と市の考え

No.	項目	意見の要旨	市の考え方
19	分野目標5	評価を見る限り、課題が多い分野になっている。活気ある自治体は、企業誘致や起業支援、観光事業へのテコ入れなども積極的にっており、白石はまだ足りないところが多い。 情報発信やPRの拡充や観光客へのもてなしなど、打開策は必要である。	仙台南部工業団地への企業誘致については、これまでオーダーメイド方式(進出企業決定後の用地造成)としておりましたが、宮城県と協議を重ね、あらかじめ用地造成を行うレディメイド方式を進めることが可能となり、9月議会定例会に関連した予算を上程いたしました。今後、工業団地の造成を実施し、積極的な企業誘致に取り組んでまいります。 商工業の振興については、主に地場産品や伝統産業の普及啓発と販路拡大、中心市街地の賑わい創出につながる団体支援に取り組んできました。現在は、伝統産業の後継者育成や空き店舗の利活用が進んでいるところです。今後は創業支援と事業承継の支援をさらに推進するため、商工会議所や公的専門機関と連携し、支援体制を充実していきたいと考えております。
20	分野目標5	商工業の振興について、様々な取組をしているとは思いますが、課題や今後の取組方針の部分が例年同じような内容となっています。今後どのように取り組んでいくのでしょうか。	
21	分野目標5	農産物直売所連絡協議会加盟店売上額について、令和7年度実績が3億円を超えるものになったの理由はどのようなもののでしょうか。	農産物直売所連絡協議会加盟店売上金額のうち、約95%の売り上げがおもしろい市場で、令和7年度は前年比108%の売り上げ(約21,000,000円の増)となりました。令和7年産の米価の高騰のほか、こじゅうろうキッズランドの来場者の増加やサンパーク内施設合同の定期イベント開催により、売り上げが増加しました。
22	分野目標5	新規就農者数について、実績が0人ですが評価をBとした理由はどのようなものなのでしょうか。	令和7年度は、親元就農、雇用就農等含めて0人でしたが、前年度、前々年度に就農した方への補助金等、新規就農者への支援を継続して行っています。
23	分野目標5	創業塾について、6名受講で創業に至らなかった5人のフォローをはじめ、市が“働きかけ”とか“後押しする体制”を率先して行うべきと考えますが、いかがでしょうか。	創業塾参加者のアフターフォローにつきましては、定期的な状況調査を行うとともに、創業に必要な支援メニューや、商工会議所と連携した支援体制を構築していきたいと考えております。
24	分野目標5	移住体験住宅について、令和7年度11件は目標値の半分であり、この数年変化がないように感じます。何が課題となっていて今後どのようにしていくのでしょうか。	移住体験住宅は年間利用が数件と伸び悩み、特に小原地区は交通の不便さや設備修繕費の増加が大きな課題となっています。今後は、利用実績や費用対効果の観点から慎重に事業のあり方を見直し、限られた財源の中でより実効性の高い移住定住促進施策へと効果的にシフトしてまいります。
25	分野目標5	ずんこちゃんスタンブラー・しろいしマルシェ・いぎなりフェス・シロウインに子どもも参加して、子どもが『白石って意外といいじゃん。』いつか、私たちも主催する側になりたい』という声が聞かれた。楽しい大人がいることが子どもたちへ良い影響があると感じています。 とても良い取り組みだと感じるのでこれからも町としても協力して継続やPRしてほしいと感じます。	様々な方が、白石を盛り上げようとまちなかでイベントを開催いただいており、多くの市民が楽しみながらイベントに参加していることは、賑わいづくり・まちづくりにとってとても重要だと考えています。大人も子どもも一緒に楽しく、まちを盛り上げていく機運ができていくことは、白石への愛着、まちづくりへの興味・関心に繋がっていくと考えています。 本市においても、これらイベントについて、補助金による助成やイベントの周知などを実施しており、今後も支援していきたいと考えております。
26	分野目標5	・移住相談者について 関東から、宮城を訪れて移住先を探している親子と川崎町に宿泊。そのまま川崎に移住するのかと聞いていましたが、選んだのは白石市でした。関東へのアクセスのしやすさなど、選ばれる町としての素質は沢山あるので自信をもってPRすべきと考える。東京で17時まで会議をして新幹線で帰宅しても保育園・児童館のお迎えに間に合うなど、リモートでの勤務の人が自然豊かな白石市に家建てて暮らせるような構想を希望します。	東北新幹線の利便性を活かし、東京での勤務と豊かな自然環境での子育てを両立できるという視点は、本市の強みを的確に捉えたものであり、大変参考になります。 「リモートワーク世代をターゲットにした住まいと暮らしの構想」は、今後の移住PRや定住施策を進める上での有効なヒントになると考えております。白石市がさらに選ばれるまちとなるよう、今後の取り組みの参考にさせていただきます。
27	分野目標6	市内一斉クリーン作戦は、かなり定着してきて、市民の環境美化意識の高揚につながっていると感じる。 空き家対策については、課題であると感じる。防犯上あるいは災害時の安全などでふあがある。特に廃墟のような空き家は対策を考え、出来るだけ早く処分したい。	空き家対策については、これまで本委員会でも様々なご意見・ご提案をいただいております。本年度は、空き家の実態調査を実施し、空き家等対策計画の策定に取り組んでいるところです。今後、空き家対策としてどのように取り組んでいくべきか検討を進めてまいります。
28	分野目標6	空き家対策は喫緊の課題と考える。主要道路沿いに景観を損なう家屋があるのは問題だと思う。美しい景観を損なう電柱の地中化を含め、観光地としてもしっかり対策を取ってほしい。	空き家対策については、これまで本委員会でも様々なご意見・ご提案をいただいております。本年度は、空き家の実態調査を実施し、空き家等対策計画の策定に取り組んでいるところです。今後、空き家対策としてどのように取り組んでいくべきか検討を進めてまいります。 無電柱化については、白石駅前から市役所周辺道路の防災機能の強化・向上、白石駅前から白石城に続く良好な景観の保全と形成を目的として、宮城県と連携しながら事業を進めております。
29	第3期総合戦略	先ず、重点戦略、分野目標別指標の評価とコメントをみると、市の各分野の目標達成に向けた努力が伺えます。 アンケート結果で毎回出ている若い世代で要望が特に高いが目標達成が困難な事項、「子どもを産み育てやすい環境、安心して妊娠、出産ができる体制の整備」については、この強い要望を実現することが、将来の定住、人口増に大きく関わることになると思います。県南医療圏、医師等確保など課題は多いと思われますが、この課題に特化したプロジェクトチーム等による解決に向けた取り組みが必要ではないでしょうか。県南中核病院での分娩体制の整備に関する報道をみましたが、大河原町の人口が益々増えるのに反して白石市の人口減少が危惧されます。一時的にみて費用対効果上課題が残るかもしれませんが、将来の白石市のために是非お願いします。	子どもを産み、育てる環境の整備は、市民アンケートにおいて、市民からの要望が多く寄せられた項目でした。全国的な産科医不足などの理由により、産科の整備は非常に難しい状況にあります。今後も継続して体制の整備を目指していきたいと考えています。 仙南地域医療圏においては、これまで出産ができる公立病院がない状況でしたが、みやぎ中核病院では、本年4月から妊婦健診の受け付けを開始しており、10月から分娩の取り扱いを始める予定です。分娩の再開に当たっては、財政面・人材面での支援を仙南2市7町共同で宮城県知事に要望しているところです。
30	第3期総合戦略	賑わいや活気のあるまちづくりのためには、やはり、企業の誘致を優先しなければと考える。雇用が増え就業率が高まれば、市の歳入も増加し、魅力あるイベントや観光事業へのテコ入れ、子育て等に活かせる。 また、目標にも記されていたシティプロモーションもこれまで以上にできる。	企業誘致について、仙台南部工業団地への誘致に積極的に取り組んでおります。工業団地の造成について、オーダーメイド方式からレディメイド方式へ変更することに伴い、これまで以上に積極的に取り組んでまいります。 シティプロモーションについては、大きな課題であると認識しています。本市が様々な取組を実施している状況を、市内・市外に発信していけるよう、検討してまいります。
31	第3期総合戦略	農産物直売所販売金額の目標値が275,000千円となっていますが、令和7年度実績値で既に目標値をクリアしていますが、なぜこの数値にしたのでしょうか。	農産物直売所売上金額の目標値については、第六次白石市総合計画においても目標値として設定しており、そちらと同じ数値を目標値と設定したものです。
32	第3期総合戦略	空き家バンクについては、これまでずっと成果が出ていないと考えます。早急な事業の見直し等が必要と考えますが、どのように見直しをしていくのでしょうか。	これまでの空き家バンク事業については、「売買」と「賃貸」のニーズの噛み合わせが課題となっていました。令和8年度からは「家屋敷課税対象者」へのピンポイント周知を実施するとともに、協力事業者との強固な連携により、空き家の登録件数が前年度を大きく上回る実績を挙げています。今後は、関係機関とのネットワークをさらに深めつつ、先進事例の調査研究も進めながら、より実効性の高い持続可能な運用体制の構築を図ってまいります。
33	第3期総合戦略	「施策を推進するにあたっての分野横断的視点」は大変重要であり、今後ぜひ進めてください。また、現場では分野横断的動きができにくいと考えられることから、市長や副市長など経営層が常にその視点で考え組織を動かしていく必要があると考えます。	これからの行政運営について、分野横断的視点は大変重要であると考えております。特に、本市の力だけでは解決することが難しい課題は年々増加していると感じており、官民連携や広域連携など様々な主体と連携していくことが今後ますます重要になってくると考えています。 本市ではこれまで公立刈田綜合病院の民間への指定管理、道の駅のPFI事業など民間の力を取り入れた事業に取り組んできました。今後も官民連携を推進していきたいと考えております。
34	第3期総合戦略	シビックプライドを育てるのは言うまでもないが、若者の定住、移住促進では、具体的にUターン政策はどういった対策をとっているのでしょうか。また、Iターンもプランに入れて実施してもらいたい。	本市では、Uターン・Iターンを促進するため、東京圏等からの移住者を対象とした「移住支援金(最大100万円+子育て加算)」の支給や、新築住宅購入に対する「定住者補助金」による経済的支援を行っております。また、移住検討者が実際の暮らしを体験できる無料の「お試し住宅」の提供をはじめ、専用窓口「移住交流サポートセンター109-one」を拠点としたきめ細かな移住相談・情報発信に努めています。
35	第3期総合戦略	子どもを持ちながら仕事をし続ける女性が減らないためには、ほんの小さなことの積み重ねだと感じています。 小学校と中学校の行事を同じ日の午前・午後に調整してなるべく欠勤の機会を減らす、児童館の時間を30分拡張など、ほんのわずかなことに感じられることではありますが、小さなつまずき真剣に取り組んでくださる町が選ばれていくと感じています。	子どもを育てながら就労している女性、世帯の支援は、大変重要なことであると認識しております。皆様からご意見をいただきながら、どのような支援が効果的に実施できるのか、他市町村の事例を参考にしつつ、検討してまいります。
36	白石の活性化について	観光地として、新幹線駅前にタクシーがないのは大きな問題だと考える。降りてくる人全てが地元人ではない。市で補助金を出してでも、最終新幹線まで最低1台は確保してもらいたい。	タクシー業界は全国的にも深刻な運転手不足に直面しており、高齢化、長時間労働等により、運転手の確保が困難な状態と認識しています。 本市の現状の運転手数で、日中営業に従事する運転手数は減らすことができず、深夜営業に従事時間を変更することのできる運転手がないこと、深夜営業の需要予測の難しさが最終新幹線までタクシーを確保するための課題となります。
37	白石の活性化について	道の駅がまもなく開業となるが、その運営も活性化のひとつに大きくかわろと考える。 利用者の多い道の駅での運営のノウハウを参考に、市民や観光客共に呼び込めるようなアイデアを行政でも考え、運営に生かしてほしいと願う。	道の駅については、民間のノウハウを最大限に活用できるよう、PFI事業として取り組んでいるところです。現在は開業に向けて施設整備に取り組んでおりますが、開業後には運営事業者と市が協力しながら、多くの方々に利用してもらえ施設となるよう、運営に取り組んでまいります。
38	白石の活性化について	市民アンケートに大型商業施設の誘致希望ということがあげられていましたが、インバウンドをはじめとする年に1度来るか分からないお客様ももちろん多いですが、平日の利用者の多くは高齢者の方が『おはよう～！今日もいい日にしようね～！』と毎日声をかけに来てくださったり、子育て中のお母さんがちょっと話をしに来てくれる。お孫さんを連れてくる。車いすを押して買い物に来る。毎日、そこに出かけて一日が元気になる。将来できる道の駅も地元の誰もが毎日行けるような居心地のよいソフト面も充実した施設になるといいなあと感じています。	アンケートでは、多くの市民の方から大型商業施設の誘致についてご要望をいただいているところです。大型商業施設については、名取市に立地しているほか、福島県伊達市にも本年オープンする予定であり、中間に位置し商圏が重なる本市に誘致することは難しい状況にあると想定されます。 令和9年度にオープンを予定している道の駅については、いただいたご意見のように、居心地の良い充実した施設となるよう、運営事業者と連携して取り組んでまいりたいと考えています。
39	白石の活性化について	子どもがよくしゃつる君を利用していますが、他市町村の子どもはもっとバスを活用していて、自由に街中を行き来しています。免許返納した方が使っているイメージが多いですがどんどん使って白石市を楽しんでほしいと感じました。	公共交通は、高齢の方の移動を支えるだけでなく、次代を担う子どもたちにとっても、地域を自由に巡り親しむための大切な手段であると認識しております。また、すでに、中学生以下の運賃を無料とし、子どもたちでも利用しやすいところですが、今後も、誰もが利用しやすい環境づくりとPRに努めてまいります。
40	白石の活性化について	近年、市主催ではなく有志の方々が町中でイベントが増えていくのを見たり、参加するうちに子どもたちから『小学生のわたしにも手伝いできることはない？』と、聞かれることがありました。この町を楽しんでいる大人がいることが子ども達の記憶に刻まれていくことがシビックプライドの醸成につながると感じています。	様々な方が、白石を盛り上げようとまちなかでイベントを開催いただいており、多くの市民が楽しみながらイベントに参加していることは、賑わいづくり・まちづくりにとってとても重要だと考えています。大人も子どもも一緒に楽しく、まちを盛り上げていく機運ができていくことは、白石への愛着、まちづくりへの興味・関心に繋がっていくと考えています。 本市においても、これらイベントについて、補助金による助成やイベントの周知などを実施しており、今後も支援していきたいと考えております。